

ふらべじ

Flower & Vegetable

Vol.16 2001
11.20

冬の号

発行 北海道立花・野菜技術センター



ハイドラングリア ‘アナベル’

Hydrangea arborescens ‘Annabelle’

新しい可能性を秘めた花—*Hydrangea arborescens* は、北アメリカ原産のユキノシタ科の低花木です。アジサイの仲間、和名はアメリカノリノキ、この園芸品種が「アナベル」です。耐寒性が強く、地際から叢生する100～150cmの枝の頂部に、純白装飾花の集合した径15～20cmの球状花を1個付けます。道内での開花は7月下旬～8月上旬中心で、ホワイトガーデンには欠かせない品目です。切り花、鉢物での利用も可能で、当センターでは新しい特産花きの候補として「アナベル」の遮光によるグリーン化栽培を検討中です。

夏から秋に、涼しげなグリーンアナベルが、爽やかな北海道からの贈り物として、多くの人に喜んでもらえることを願っています。

2001 公開デー

花・野菜技術センターと植物遺伝資源センター共催の2001公開デーを8月28日に開催しました。小雨にもかかわらず多数の生産者や市民が来場されました。



空知の花のイメージが浮かび上がるポーセラーツに感心



JICA の研修生の方もスイートコーンを試食して甘さにびっくり



植物遺伝資源センターからは貴重な遺伝資源が特別公開されました



かぼちゃの新しい栽培技術について研究員が直接説明しました



新方式の野菜移植機の実演も好評でした



今回の苗当てクイズはなかなか難しかったようです



デルフィニウムとプリムラのセル成形苗の鉢あげにチャレンジ



小さな苗からこのように大きな花穂が伸びるまで育てるのです



北海道の花き生産を担う気鋭の生産者と研究員の熱い対話

産地支援セミナー開催 9月13日 沼田町

9月13日、「花き産地支援セミナー」を沼田町農業協同組合大会議室及び町内花き生産者宅を会場に開催いたしました。稲刈りを目前にした繁忙期にもかかわらず、地元関係機関の協力のもと、沼田町の花き生産者ほか約60名の参加を頂き、たいへん盛会でした。このセミナーは、試験研究機関と地域の生産者との技術交流をとおして、技術の高位平準化や課題解決をはかるための新たな試みの一つです。



▲ 新技術の講習 (JA 沼田町会議室)



▲ ラークスパーの利雪冷房育苗に取り組む
木村寿文さんのハウス

セミナーの会場となった沼田町は、当センターと関係機関の連携により実施している「宿根かすみそうの多茎仕立て栽培の実証」（石田隆広さん圃場）や、全国の積雪地帯から注目を集めている「利雪技術」の花き生産分野への活用など、特色ある花き産地づくりに熱心にとりこんでおります。

当センターでは、このような、創意工夫への支援を目的に、地域の皆さんとの「フェース ツウ フェース」を基本に、地域に根ざした技術の開発や研修の充実に努めます。

今後も、皆さんの要望にこたえて、いっそう充実させていく計画です。

養液土耕栽培の試験を始めました

アルストロメリアの養液土耕栽培に取り組んでいます（栄養診断に基づく花き（アルストロメリア）の養液土耕栽培）。

養液土耕栽培とは、土耕条件で施肥と同時に少量の灌水を一日に数回行う栽培方法のことであり、システムとして、水をくみ上げる原水ポンプ、原水の汚れを取り除くフィルター、圧力調節弁、液肥タンク、液肥混入ポンプ、灌水制御器、電磁弁、点滴チューブなどからなっています。



▲ 養液土耕システムの例

すでに施設栽培においては追肥を灌水施肥で行っている場合が多いのですが、養液土耕栽培では点滴チューブを使用しているのが大きな違いです。点滴チューブを用いることにより、作物が必要としている養分、水を適正にむら無く与えてやる事が可能であり、施肥・灌水量の削減につながると言われています。また、養液土耕栽培には栄養診断技術の導



▲ 点滴灌水時のベッド表面の様子
点滴孔の周辺以外は乾いている

入が不可欠であり、常に作物の栄養状態を把握しながら、それに見合った施肥を行うことが重要です。栽培システムは、現在、十数社で販売されており、システムの内容によって異なりますが10a当り数百万円の導入コストがかかります。点滴チューブにも様々な種類があり、大きく分けて、安価ですが耐久性、精度の劣る軟質チューブと、高価ですが耐久性、灌水精度の高い硬質チューブの2種類があります。価格は4,000～70,000円/100mと幅が広く、圃場の条件（傾斜など）や原水の圧力によって選択する必要があります。

当センターでは、本年度、アルストロメリアの養液土耕栽培試験に着手いたしました。アルストロメリアの栄養診断技術を確立するとともに、養液土耕栽培のマニュアル作りを目指しています。

北海道花き・野菜技術研修の紹介

□ プロフィール

本道の花き・野菜の一層の生産振興を支援するため、道立農業試験場としては唯一の研修事業を平成8年度から実施し、本年度までに約110名の方が受講され、本道農業の担い手として活躍しております。

□ 花き・野菜技術研修の特色は？

受講者の目的に即した研修コースを設置し、試験研究機関のノウハウとスタッフを活用し、「自由」に「楽しく」自主的に技術を学べます。

□ 研修コースの紹介

● 専門技術研修

高度な専門技術を有する生産者や技術指導者の養成を目的に、研究員等からの個別指導、自主的な研究調査、総合技術研修の講義・実習への参加等、期間や受講方法を含め自らがプランニングできる研修です。

● 総合技術研修

実践的な技術を有する生産者の育成を目的に、花き・野菜のコース別に、6ヶ月のカリキュラムにより基礎理論から実践技術までを、講義・栽培管理実習・現地研修等を通して体系的に学べる研修です。

● 基礎技術研修（ベーシックセミナー）

新たに花き・野菜生産への参画を目指す方を対象とし、農閑期（冬期間）を活用し、1週間程度の集中講義をにより、花き・野菜栽培に関する基礎知識が学べる研修です。



▲ 平成13年度総合技術研修（土壌調査実習）

□ 各種セミナーの開催

地域に開かれた農業試験場として、開発した技術・品種等の情報の発信や地域における課題解決への支援を図るためのセミナー（課題解決研修）及び

道産の花き・野菜や当センターの業務を理解していただくための消費者等を対象としたセミナー（市民スクール）を開催し、これまでに、約5000名の方が受講されております。

平成13年度各種セミナー開催スケジュール

花・野菜新技術セミナー	2月下旬	滝川市文化センター
アスパラガスフォーラム	3月上旬	滝川市文化センター



▲ ガーデニングセミナー（7月12日開催）

平成14年度

専門技術・総合技術研修生募集内容

専門技術研修

コース	花き栽培、野菜栽培、病虫害、 土壌肥料
期間	1年以内の範囲で任意に設定
募集定員	各コース2名程度
募集期間	平成14年1月16日～ 研修開始1ヶ月前

総合技術研修

コース	花き・野菜
期間	平成14年4月16日～10月11日
募集定員	花き 5名 ・ 野菜 10名
募集期間	平成14年1月16日～3月15日

定員になり次第締め切ります

※詳細は、技術普及部主査までお問い合わせください。

北海道立 花・野菜技術センター

〒073-0026 北海道滝川市東滝川735番地
Tel 0125-28-2800 FAX 0125-28-2299

www.agri.pref.hokkaido.jp/hanayasai/center.htm

E-mail hana_yasai@agri.pref.hokkaido.jp